

# 全身管理と歯科麻酔

## (SmAD : Systemic management and Anesthesia for Dentistry)

(H28年 7月4日～8月2日)

コース責任者：小豆島正典（主）、佐藤健一（副）、三上俊成

担当講座（分野）担当 Director：	生理学講座（病態生理学分野・非常勤講師）	松本 範雄
	解剖学講座（機能形態学分野）	藤村 朗
	薬理学講座（病態制御学分野）	田村 晴希
	病理学講座（病態解析学）	三上 俊成
	口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野）	阿部 亮輔
	口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野）	飯島 伸
	口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野）	佐藤 健一
	口腔顎顔面再建学講座（歯科放射線学分野）	小豆島正典
	口腔医学講座（関連医学分野）	千葉 俊美

第4学年

講義：57時間 演習：18時間 実習：12時間  
(キャッチアップ (各学生3時間)  
該当者のみ)

### 教育成果(アウトカム):(講義・実習)

これまでに学習した人体の生理学や解剖学、薬理学の知識を再度整理・統合し、麻酔と鎮静および救急蘇生の知識・技能や高齢者・有病者に対する基礎的知識・病態を学ぶことで、顎口腔領域に疾患をもつ患者を適切に治療できるようになる。

#### Sub Unit A: 全身管理に必要な生理学(臨床生理学)

教育成果(アウトカム)： 生命の維持と恒常性に関する基本的知識を習得することで、高齢者や有病者の安全性に配慮した歯科治療ができるようになる。

#### Sub Unit B: 歯科麻酔学(麻酔学)

教育成果(アウトカム)： 臨床に即した生理学・解剖学・薬理学の知識を基に、麻酔や鎮静法および救急蘇生法に関する知識・技能・態度を修得し、痛みや不安を取り除き安全な歯科医療を行うことができるようになる。

#### Sub Unit C: 高齢者・有病者歯科

教育成果(アウトカム)： 高齢者の医学的特徴と有病者の病態に関する基礎的知識と、これまで学んだ歯科治療の基本的な考え方を整理し統合することにより、高齢者や有病者に配慮した歯科医療を行うことができるようになる。

### 事前学修時間(30分)

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修(予習・復習)を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

### 講義日程

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
7月4日(月) 1限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	全身管理に必要な生理学(1) ニューロン・シナプス p. 28-38  ニューロンの興奮および興奮の伝導と伝達機能について習得する。	1. 神経を構造および機能の観点から区分し、おのおのについて説明する。 2. 中枢神経系と末梢神経系とは何かを述べ、おのおのが何から構成されているかを説明する。 3. 神経細胞ではどのように活動電位が発生して伝導され、どのようにして他の神経細胞へ伝達されるかを説明する。

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
7月4日(月) 2限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	<b>全身管理に必要な生理学(2)</b> <b>自律神経系 1</b> p. 89-92  自律神経系の機能的役割を習得する。	1. 自律神経系の特徴を説明する。 2. 交感神経系と副交感神経系について、おのおの構造と機能を説明する。
7月4日(月) 3限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	<b>全身管理に必要な生理学(3)</b> <b>自律神経系 2</b> p. 93-95  自律神経系の機能的役割を習得する。	1. 心臓・肺・消化器系・血管について、交感神経系と副交感神経系の作用を比較しつつ説明する。
7月4日(月) 4限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	<b>全身管理に必要な生理学(4)</b> <b>筋収縮</b> p. 39-44  筋収縮のメカニズムを習得する。	1. 3種類の筋組織における類似点と相違点、また体内での所在を述べる。 2. 骨格筋収縮・心筋収縮・平滑筋収縮のメカニズムについて説明する。
7月5日(火) 1限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	<b>全身管理に必要な生理学(5)</b> <b>血液</b> p. 104-110  血液凝固過程と制御因子を修得する。	1. 血液の成分とそれぞれの役割を述べる。 2. 血液の凝固過程を説明する。 3. 血液凝固を抑制または促進する因子をあげる。
7月5日(火) 2限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	<b>全身管理に必要な生理学(6)</b> <b>体液</b> p. 111-115  体液・組織液の調整機能について理解する。	1. 体液を3つの区分に分けて説明する。 2. 肺と腎臓による pH 調節のメカニズムを説明する。 3. 浸透圧調節メカニズムを説明する。
7月5日(火) 3限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	<b>全身管理に必要な生理学(7)</b> <b>循環 1</b> p. 116-120  心機能、血圧、体液量の調節を習得する。	1. 心筋の特徴および刺激伝導系を説明する。 2. 肺循環系と体循環系を比較し、それぞれの特徴を述べる。 3. 次の言葉の意味を説明する: 収縮、拡張、1回拍出量、心周期
7月5日(火) 4限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	<b>全身管理に必要な臨床生理学(8)</b> <b>循環 2</b> p. 121-128  心機能、血圧、体液量の調節を修得する。	1. 心電図からどのような情報が得られるかを説明する。 2. 血圧調節メカニズムを説明する。 3. 血圧・心拍数に影響を及ぼす各種因子(自律神経・運動・電解質など)について説明する。

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
7月6日(水) 1限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	<b>全身管理に必要な生理学(9)</b> <b>呼吸 1</b> p. 129-132  呼吸の調節と呼吸による体内の変化について修得する。	1. 次の言葉の意味を定義する：細胞呼吸・外呼吸・内呼吸・肺換気・呼気・吸気 2. 肺気量に関する次の言葉を定義する：1回換気量・肺活量・呼気時予備量・吸気時予備量・残気量 3. 肺内および組織におけるガス交換を説明する。
7月6日(水) 2限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	<b>全身管理に必要な生理学(10)</b> <b>呼吸 2</b> p. 133-138  呼吸の調節と呼吸による体内の変化について修得する。	1. 酸素と二酸化炭素が、血液でどのように運ばれるかを説明する。 2. 呼吸を司る脳の部位をあげる。 3. 呼吸数に影響する身体の状態をいくつかあげる。 4. 酸素や二酸化炭素の濃度が、どのように呼吸の回数と深さに影響するかを説明する。
7月6日(水) 3限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学 (1)</b> <b>総論</b>  歯科麻酔の役割、意義を習得する。	1. 麻酔の概念を説明できる。 2. 麻酔法の特徴、種類、役割を説明できる。 3. 麻酔におけるインフォームドコンセントについて説明できる。
7月6日(水) 4限	藤村朗教授 (機能形態学)	<b>歯科麻酔学 (2)</b> <b>顎骨の解剖</b>  局所麻酔に必要な頭蓋骨の形態を修得する。	1. 下顎孔伝達麻酔について翼突下顎隙の観点から解剖学的に説明できる。 2. 眼窩下孔伝達麻酔について解剖学的に説明できる。 3. 浸潤麻酔に関係する顎骨の構造(小孔、頬骨窩稜、切歯管等)を説明できる。
7月7日(木) 1限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	<b>全身管理に必要な生理学(11)</b> <b>内分泌 1</b> p. 171-176  ホルモンとその作用メカニズムを修得する。	1. 内分泌と外分泌の違いを説明する。 2. 主な内分泌腺の位置を示す。 3. 視床下部と下垂体・副腎皮質とが、ホルモンの分泌に関してどのように関わり合っているかを、例をあげて述べる。
7月7日(木) 2限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	<b>全身管理に必要な生理学(12)</b> <b>内分泌 2</b> p. 177-182  ホルモンとその作用メカニズムを修得する。	1. 甲状腺ホルモンの作用メカニズムを述べる。 2. 膵臓から分泌されるホルモンの作用メカニズムを述べる。
7月7日(木) 3限	坂本望助教 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学 (3)</b> <b>全身評価・管理 (1)</b>  全身状態を評価する方法を修得する。	1. 問診、視診、触診および打診等によって患者の現症を把握する。 2. バイタルサインを列挙し、説明できる。 3. 各種臨床検査の基準値を知り、異常な値の意味を説明する。 4. リスク・重篤度の分類ができる。 5. 呼吸系、循環系、代謝系のモニターを列挙できる。

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
7月7日(木) 4限	坂本望助教 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学(4) 全身評価・管理(2)</b>  術前の全身状態評価と管理について修得する。	1. 手術および歯科治療時に留意すべき常用薬物について説明できる。 2. 術前経口摂取制限について説明できる。 3. 麻酔前投薬について説明できる。
7月8日(金) 1限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学) 小豆島正典教授 (歯科放射線学 分野)	<b>「全身管理に必要な生理学」 Sub Unit A 評価試験</b>	1. 「全身管理に必要な生理学」で修得した知識を確認する。
7月8日(金) 2限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学(5) 局所麻酔法</b>  局所麻酔法に関する知識・技能を修得する。	1. 局所麻酔の目的を説明できる。 2. 局所麻酔法の種類、特徴を説明できる。 3. 表面麻酔法について説明できる。 4. 浸潤麻酔法について説明できる。 5. 伝達麻酔法について説明できる。
7月8日(金) 3限	田村晴希講師 (病態制御学)	<b>歯科麻酔学(6) 麻酔薬</b>  局所麻酔薬、血管収縮薬の薬理学的作用を修得する。	1. 局所麻酔薬の種類と特徴を説明できる。 2. 血管収縮薬の種類、特徴および臨床使用上の注意を説明できる。
7月11日(月) 1限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学(7) 麻酔の偶発症(1)</b>  局所麻酔の偶発症とそのメカニズムを修得する。	1. 局所麻酔法の局所的偶発症について説明できる。 2. 局所麻酔および歯科治療時の内科的疾患の増悪について説明できる。 3. 歯科治療時の誤飲・誤嚥について説明できる。
7月11日(月) 2限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学(8) 麻酔の偶発症(2)</b>  局所麻酔の偶発症とそのメカニズムを修得する。	1. 局所麻酔および歯科治療時の全身的偶発症について説明できる。(神経性ショック、過換気症候群、アナフィラキシー、局所麻酔中毒、血管収縮薬に対する反応、メトヘモグロビン血症) 2. ショックについて説明できる。
7月11日(金) 3限	田村晴希講師 (病態制御学)	<b>歯科麻酔学(9) 救急蘇生薬</b>  救急蘇生に使用する薬の薬理学的作用を修得する。	1. 昇圧薬、抗不整脈薬、降圧薬について説明できる。 2. 全身偶発症に対する薬物の使用について説明できる。

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
7月12日(火) 1限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学(10) 全身麻酔法</b>  全身麻酔法に関する知識を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全身麻酔の理論、概念、機序を説明できる。</li> <li>2. 全身麻酔に使用する装置、器具、回路を説明できる。</li> <li>3. 吸入麻酔法を説明できる。</li> <li>4. 静脈麻酔法を説明できる。</li> <li>5. 全身麻酔における気道確保について説明できる。</li> <li>6. 気管挿管の適応、手技について説明できる。</li> </ol>
7月12日(火) 2限	田村晴希講師 (病態制御学)	<b>歯科麻酔学(11) 全身麻酔薬</b>  全身麻酔薬の薬理学的作用を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全身麻酔薬の種類と特徴を説明できる。</li> <li>2. 麻酔前投薬、筋弛緩薬について種類と薬理作用を説明できる。</li> </ol>
7月12日(火) 3、4限	古城慎太郎助教 阿部亮助教 山谷元気助教 杉山芳樹教授 飯島伸助教 熊谷章子講師 野宮孝之助教 大橋祐生助教 (口腔外科学) 佐藤健一教授 (歯科麻酔学) 小豆島正典教授 (歯科放射線学 分野)	<b>班別実習・1番～20番 浸潤麻酔と伝達麻酔 口腔外科外来</b>  浸潤麻酔、伝達麻酔に関する知識、技術、態度を習得する。  (該当しない学生は自己学習)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浸潤麻酔、伝達麻酔に必要な解剖学的事項を説明する。</li> <li>2. 浸潤麻酔、伝達麻酔に必要な器具を列挙する。</li> <li>3. 浸潤麻酔、伝達麻酔を安全に行う。</li> <li>4. 浸潤麻酔、伝達麻酔の偶発症を列挙し、その対処法を説明する。</li> </ol>
7月13日(水) 1限	四戸豊講師 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学(12) 精神鎮静法</b>  精神鎮静法に関する知識を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神鎮静法の内容、目的、適応、禁忌、種類、実施法を説明できる。</li> <li>2. 吸入鎮静法について説明できる。</li> <li>3. 静脈内鎮静法について説明できる。</li> <li>4. 静脈内鎮静法の使用薬剤を説明できる。</li> </ol>
7月13日(水) 2限	四戸豊講師 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学(13) 救急蘇生法</b>  救急蘇生法(BLS)について習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. バイタルサインについて説明できる。</li> <li>2. 成人の一次救命処置について説明できる。</li> <li>3. 自動体外式除細動器について説明できる。</li> <li>4. 小児の一次救命処置について説明できる。</li> <li>5. 異物による気道閉塞とその解除を説明できる。</li> </ol>

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
7月13日(水) 3、4限	古城慎太郎助教 阿部亮輔助教 山谷元気助教 杉山芳樹教授 飯島伸助教 熊谷章子講師 野宮孝之助教 大橋祐生助教 (口腔外科学) 佐藤健一教授 (歯科麻酔学) 小豆島正典教授 (歯科放射線学 分野)	<b>班別実習・21番～40番 浸潤麻酔と伝達麻酔 口腔外科外来</b>  浸潤麻酔、伝達麻酔に関 する知識、技術、態度を 習得する。  (該当しない学生は自 己学習)	1. 浸潤麻酔、伝達麻酔に必要な解剖学的事 項を説明する。 2. 浸潤麻酔、伝達麻酔に必要な器具を列挙 する。 3. 浸潤麻酔、伝達麻酔を安全に行う。 4. 浸潤麻酔、伝達麻酔の偶発症を列挙し、 その対処法を説明する。
7月14日(木) 1限	佐藤雅仁准教授 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学(14) 術中管理1 呼吸管理、循環管理</b>  術中の呼吸管理、循環管 理に関する知識を習得 する。	1. 術中呼吸管理について説明できる。 2. 術中循環管理について説明できる。 3. 術中合併症を列挙し、対処法を説明でき る。
7月14日(木) 2限	佐藤雅仁准教授 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学(15) 術中管理2 輸液・輸血・代謝管理・ 酸塩基平衡、他</b>  術中の輸液管理の基礎 的知識を習得する。	1. 術中の輸液・輸血管理について説明でき る。 2. 術中の代謝管理について説明できる。 酸塩基平衡について説明できる。
7月14日(木) 3、4限	古城慎太郎助教 阿部亮輔助教 山谷元気助教 杉山芳樹教授 飯島伸助教 熊谷章子講師 野宮孝之助教 大橋祐生助教 (口腔外科学) 佐藤健一教授 (歯科麻酔学) 小豆島正典教授 (歯科放射線学 分野)	<b>班別実習・40番～58番 浸潤麻酔と伝達麻酔 口腔外科外来</b>  浸潤麻酔、伝達麻酔に関 する知識、技術、態度を 習得する。  (該当しない学生は自 己学習)	1. 浸潤麻酔、伝達麻酔に必要な解剖学的事 項を説明する。 2. 浸潤麻酔、伝達麻酔に必要な器具を列挙 する。 3. 浸潤麻酔、伝達麻酔を安全に行う。 4. 浸潤麻酔、伝達麻酔の偶発症を列挙し、 その対処法を説明できる。

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
7月15日(金) 1限	坂本望助教 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学(16)</b> <b>術後管理1</b> <b>全身合併症、疼痛管理</b>  術後の合併症と疼痛管理について習得する。	1. 術後の全身管理について説明できる。 2. 術後全身合併症を列挙し、対処法を説明できる。 3. 術後疼痛管理について説明できる。 4. 術後鎮痛薬の種類と特徴を説明できる。
7月15日(金) 2限	飯島伸助教 (口腔外科学)	<b>歯科麻酔学(17)</b> <b>術後管理2</b> <b>栄養管理、感染予防</b>  術後の栄養管理、感染予防の基本的事項を習得する。	1. 術後の栄養管理について概説できる。 2. 栄養投与法を列挙し、その特徴を概説できる。 3. 術後の感染予防について概説できる。
7月15日(金) 3、4限	古城慎太郎助教 阿部亮輔助教 山谷元気助教 杉山芳樹教授 飯島伸助教 熊谷章子講師 野宮孝之助教 大橋祐生助教 (口腔外科学) 佐藤健一教授 (歯科麻酔学) 小豆島正典教授 (歯科放射線学 分野)	<b>班別実習・49番～64番</b> <b>浸潤麻酔と伝達麻酔</b> <b>口腔外科外来</b>  浸潤麻酔、伝達麻酔に関する知識、技術、態度を習得する。  (該当しない学生は自己学習)	1. 浸潤麻酔、伝達麻酔に必要な解剖学的事項を説明する。 2. 浸潤麻酔、伝達麻酔に必要な器具を列挙する。 3. 浸潤麻酔、伝達麻酔を安全に行う。 4. 浸潤麻酔、伝達麻酔の偶発症を列挙し、その対処法を説明する。
7月19日(火) 2限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	<b>「歯科麻酔学1～17」</b> <b>Sub Unit B 評価試験</b>	「歯科麻酔学1～17」で修得した知識を確認する。
7月19日(火) 3限	千葉俊美教授 (関連医学)	<b>高齢者と有病者の歯科治療(1)</b> <b>高血圧症と虚血性心疾患</b>  循環器疾患をもつ患者の歯科治療で配慮すべき注意点を修得する。	1. 以下の点について説明する。 高血圧症の病態、症候、診断 高血圧症例での歯科治療の留意点 虚血性心疾患の病態、症候、診断 虚血性心疾患の歯科治療での留意点 高血圧症と虚血性心疾患の治療ガイドライン

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
7月19日(火) 4限	千葉俊美教授 (関連医学)	<b>高齢者と有病者の歯科治療(2)</b> <b>先天性心疾患、心臓弁膜症、心不全、感染性心内膜炎</b>  循環器疾患をもつ患者の歯科治療で配慮すべき注意点を修得する。	1. 以下の点について説明する。 先天性心疾患、心臓弁膜症の主要な病態、症候、診断 心不全の主要な病態、症候、診断 心不全例での歯科治療の留意点 感染性心内膜炎の主要な病態、症候、診断 感染性心内膜炎ガイドライン
7月20日(水) 1限	山田浩之教授 (口腔外科学)	<b>高齢者と有病者の歯科治療(3)</b> <b>アンチエイジング医学</b>  アンチエイジング医学について習得する。	1. アンチエイジング医学について概説する。 2. アンチエイジング医学実践のための検査の種類とその目的を説明する。 3. 口腔から考えるアンチエイジングについて概説する。
7月20日(水) 2限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	<b>高齢者と有病者の歯科治療(4)</b> <b>代謝・内分泌疾患、腎臓疾患</b>  代謝・内分泌疾患、腎臓疾患およびその疾患を有する患者の管理法を修得する。	1. 歯科診療および全身麻酔時に注意すべき代謝・内分泌疾患を説明できる。 2. 代謝・内分泌疾患患者の管理上の問題点、対処法を説明できる。 3. 歯科診療および全身麻酔時に注意すべき腎臓疾患を説明できる。 4. 腎臓疾患患者の管理上の問題点、対処法を説明できる。
7月20日(水) 3限	飯島伸助教 (口腔外科学)	<b>高齢者と有病者の歯科治療(5)</b> <b>口腔管理</b>  各種疾患患者を治癒に導くために必要な口腔管理に必要な知識を習得する。	1. 摂食嚥下リハビリテーションや口腔ケアを含む口腔管理について概説する。 2. 造血幹細胞移植における口腔管理について概説する。 3. 造血器悪性疾患に伴う口腔症状について説明する。
7月20日(水) 4限	飯島伸助教 (口腔外科学)	<b>高齢者と有病者の歯科治療(6)</b> <b>睡眠時無呼吸症候群</b>  睡眠時無呼吸症候群の概念、症状、診断、治療について習得する。	1. 健康成人の睡眠に概説する。 2. 睡眠時無呼吸症候群の概念について説明する。 3. 睡眠時無呼吸症候群の症状について説明する。 4. 睡眠時無呼吸症候群の疫学、原因について概説する。 5. 睡眠時無呼吸症候群の診断、治療について説明する。



月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
7月21日(木) 1限	大星博明教授 (福岡歯科大学)	<b>高齢者と有病者の歯科治療(7)</b> <b>腎疾患・脳卒中・認知症</b>  腎疾患・脳卒中・認知症患者の歯科治療で配慮すべき注意点を修得する。	1. 高齢者に多く見られる全身疾患を列挙できる。 2. 高齢者によく見られる病態を学び、その治療と予防を説明できる。 3. 加齢・老化に伴う臓器の変化と治療上の留意点を説明できる。 4. 認知賞の症候、診断と治療を説明できる。
7月21日(木) 2限	千葉俊美教授 (関連医学)	<b>高齢者と有病者の歯科治療(8)</b> <b>不整脈疾患、抗凝固・抗血小板療法、出血性疾患</b>  循環器疾患をもつ患者の歯科治療で配慮すべき注意点を修得する。	1. 以下の項目について説明する。 不整脈疾患の発生機序と病態 歯科治療中の主な不整脈発作の心電図の特徴、ペースメーカー、植込み型除細動器の意義 凝固・線溶系の主要な症候、病態 抗凝固療法や抗血小板療法のガイドライン 特発性血小板減少性紫斑病、血友病、Von Willebrand 病など
7月21日(木) 3限	阿部亮輔助教 (口腔外科学)	<b>高齢者と有病者の歯科治療(9)</b> <b>小児、妊婦</b>  小児や妊婦に対する歯科治療で留意する事項について習得する。  *コースアンケート	1. 小児や妊婦の身体的特徴を概説できる。 2. 小児や妊婦に対する歯科治療における留意点を列挙できる。 3. 小児や妊婦に対する投薬における留意点を列挙できる。
7月22日(金) 2限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	「 <b>高齢者・有病者歯科1~9</b> 」 Sub Unit C 評価試験	「高齢者・有病者歯科1~9」で修得した知識を確認する。
7月25日(月) 1限	松本範雄 非常勤講師(病態生理学)	キャッチアップ 「全身管理に必要な生理学1,2」	「全身管理に必要な生理学1,2」で修得した知識を強化する。
7月25日(月) 2限	松本範雄 非常勤講師(病態生理学)	キャッチアップ 「全身管理に必要な生理学3,4」	「全身管理に必要な生理学3,4」で修得した知識を強化する。
7月26日(火) 1限	松本範雄 非常勤講師(病態生理学)	キャッチアップ 「全身管理に必要な生理学5,6」	「全身管理に必要な生理学5,6」で修得した知識を強化する。
7月26日(火) 2限	松本範雄 非常勤講師(病態生理学)	キャッチアップ 「全身管理に必要な生理学7,8」	「全身管理に必要な生理学7,8」で修得した知識を強化する。
7月27日(水) 1限	松本範雄 非常勤講師(病態生理学)	キャッチアップ 「全身管理に必要な生理学9,10」	「全身管理に必要な生理学9,10」で修得した知識を強化する。

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
7月27日(水) 2限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	キャッチアップ 「全身管理に必要な生理学 11, 12」	「全身管理に必要な生理学 11, 12」で修得した知識を強化する。
7月28日(木) 2限	松本範雄 非常勤講師 (病態生理学)	キャッチアップ評価試験 「全身管理に必要な生理学」	キャッチアップ「全身管理に必要な生理学」で修得した知識を確認する。
7月28日(木) 3限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	キャッチアップ 「歯科麻酔学 1-3」	「歯科麻酔学 1-3」で修得した知識を強化する。
7月28日(木) 4限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	キャッチアップ 「歯科麻酔学 4-6」	「歯科麻酔学 4-6」で修得した知識を強化する。
7月29日(金) 1限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	キャッチアップ 「歯科麻酔学 7-9」	「歯科麻酔学 7-9」で修得した知識を強化する。
7月29日(金) 2限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	キャッチアップ 「歯科麻酔学 10-12」	「歯科麻酔学 10-12」で修得した知識を強化する。
8月1日(月) 3限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	キャッチアップ 「歯科麻酔学 13-15」	「歯科麻酔学 13-15」で修得した知識を強化する。
8月1日(月) 4限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	キャッチアップ 「歯科麻酔学 16-17」	「歯科麻酔学 16-17」で修得した知識を強化する。
8月2日(火) 2限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	キャッチアップ評価試験 「歯科麻酔学」	キャッチアップ「歯科麻酔学」で修得した知識を確認する。

教科書・参考書 (教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書 名	著者氏名	発行所	発行年
教	はじめの一步のイラスト 生理学 2版	照井直人 編	羊土社	2012年
教	臨床歯科麻酔学 4版	丹羽均ほか編著	永末書店	2011年
参	歯科麻酔学 7版	福島和昭ほか編	医歯薬出版	2011年

## SmAD の評価法

SmAD と AST は、領域的には相互に関連しておりますが、独立した 2 つのコースとして評価します。  
SmAD の評価点は以下の式により算出します。

SmAD 評価点 = Sub Unit A(評価試験点数) x 30% + Sub Unit B(評価試験点数) x 50% + Sub Unit C(評価試験点数) x 20%

上記計算式で小数点がでた場合、65 点以上は四捨五入、65 点未満は切り捨てます。

ただし、Sub Unit B については、個別に 65 点以上を求めます。65 点未満場合には、2 月 23 日～3 月 1 日に行われる Sub Unit B の再試験を受けることができます。Sub Unit A - C 全体の評価点が 65 点未満場合には、同時期間に行われる Sub Unit A - C の再試験を受験できます。再試験前に教授会に提出する SmAD の評価点は、上記計算式で得られた点数、もしくは Sub Unit B だけの点数のうち、低い方の点数とします。同様に再試験後に教授会に提出する SmAD の成績も同様です。

Sub Unit の評価試験日は下記の通りです。

Sub Unit A(臨床生理学): 7 月 8 日  
Sub Unit B(歯科麻酔学): 7 月 15 日  
Sub Unit C(高齢者・有病者): 7 月 21 日

Sub Unit A が 65 点未満の場合、7 月 22 日から行う「生理学キャッチアップ」に出席し、その中で行われる「キャッチアップ評価試験」を受けることができます。そこで 70 点以上のときは合格とし、Sub Unit A の評価を 65 点とします。キャッチアップ評価試験で 70 点未満の場合には、その前に行った評価試験の点数(65 点未満)を獲得点とします。CBT 対策にもなりますので、該当者はぜひ「生理学キャッチアップ」に参加してください。なお「生理学キャッチアップ」に 1 コマでも欠席した場合には、「キャッチアップ評価試験」を受けることはできません。「麻酔学キャッチアップ」の取扱いも同様です。65 点以上の学生は「キャッチアップ」の受講はご遠慮ください。

「キャッチアップ評価試験」の基準を 70 点にした理由は、CBT の基準に合致させるためです。

## SmAD の再試について

SmAD の点数(Sub Unit A - C の総合点)が 65 点未満の場合には、2 月 23 日～3 月 1 日に行われる再試期間に再試を受けることができます。試験範囲は Sub Unit A～C まで全ての領域です。Sub Unit B だけが 65 点未満の場合には、Sub Unit B だけの再試験を行います。再試における各 Unit の評価ウエイトは、それぞれ 30%, 50%, 20%としますが、Sub Unit B が Sub Unit A - C の総合点より低い場合、後者の得点を SmAD の最終的評価点とします。

### 例: Sub Unit A 60 点、Sub Unit B 67 点、Sub Unit C 65 点の場合

SmAD =  $60 \times 0.3 + 67 \times 0.5 + 65 \times 0.2 = 64.5$  → 64 点として教授会提出 → Sub Unit A+B+C を範囲とする再試  
しかし「生理学キャッチアップ評価試験」で 75 点(65 点として評価)を取っていると

SmAD =  $65 \times 0.3 + 67 \times 0.5 + 65 \times 0.2 = 66$  → 66 点として教授会提出 → 再試なし

### 例: Sub Unit A 65 点、Sub Unit B 60 点、Sub Unit C 65 点の場合

SmAD =  $65 \times 0.3 + 60 \times 0.5 + 65 \times 0.2 = 62.5$  → Sub Unit B の点数が低いため 60 点として教授会提出 → Sub Unit B を範囲とする再試験を行う。

しかし「麻酔学キャッチアップ試験」で 75 点(65 点として評価)を取っていると

SmAD =  $65 \times 0.3 + 65 \times 0.5 + 65 \times 0.2 = 65$  → 65 点として教授会提出 → 再試なし

## SmAD の出席の取扱い

2/3 以上の出席が必要です。この出席には「キャッチアップ」と評価試験の出席は含めません。

Sub Unit A 12 コマ、Sub Unit B(実習を含む) 19 コマ、Sub Unit C 9 コマです。全コマ数は 40 なので 27 コマ以上の出席が必要です。

各実習時には、その終了時に実習評価を行います。そこで総合 65 点以上獲得した場合のみ Sub Unit B の受験要件とします。通常、まじめに実習すれば 65 点未満になりませんので、実習は欠席しないようお願いします。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
カラー複合機・DocuCentre IV	C3370P	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習・講義資料作成用
ノートパソコン・MacBook Air 一式	11インチ MC505J/A	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習・講義資料作成用
ノートブックパソコン・MacBookAir・一式	CTO Education ZOJK	1	基礎実習用機器	講義資料作成・提示用
ノートパソコン・VAIO	VPCS149FJ/B	1	基礎実習用機器	講義資料作成・提示用
デスクトップパソコン・MacPro	2.4GHz 8Core Xeon ZOLG	1	基礎実習用機器	実習・講義資料作成用
カラー複合機・一式	imagio MPC3301	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習・講義資料作成用
ノートパソコンLets note B10	CF-B10 CWHDR	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習・講義プレゼンテーション用
ノートパソコン・MacBookAir		1	基礎実習・臨床実習用機器	実習・講義プレゼンテーション用
ノートパソコン MacBook Pro		1	基礎実習用機器 視聴覚機器	症例プレゼンテーション用
デスクトップパソコン	MC813J/A	1	基礎実習用機器 視聴覚機器	実習資料保存 症例プレゼンテーション用
Ettan IPGphor+Strip Holder一式		1	基礎実習用機器	実習試料作成用
ノートパソコン MacBook Pro	MD101J/A Education	1	基礎実習用機器 視聴覚機器	症例プレゼンテーション用
デスクトップパソコン	Vostro 470 ミニタワー	1	基礎実習用機器 視聴覚機器	講義・実習に使用する配布資料の作成
デジタルカメラ一式	OM-D E-M10	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例提示資料の作成
ノートパソコン・MacBook Air 11インチ		1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義プレゼンテーション 症例提示用
歯科用ユニット スマイラー 一式	GMP2-MS1211	1	臨床実習用機器	全身管理、精神鎮静法の実習
ノートパソコン・MacBookPro	MGXA2JA	1	視聴覚用機器	実習、講義の資料提示用
デスクトップパソコン・iMac27 一式	Retina5K Z0QX Academic	1	視聴覚用機器	実習、講義の資料提示用
ノートパソコン・dynabook 一式	PR73PBP-SHA	1	視聴覚用機器	実習、講義の資料提示用
両袖机	LE-157D-33	1	視聴覚用機器	実習、講義の資料の作成
ノートパソコン・Macbook ProRetinaDisplay	Z0QN BTO Academic	1	視聴覚用機器	講義でpptでの視聴覚素材供覧に使用